

ものづくり集団が起こした、小さな革命

205 松本金型株式会社 M-M販売事業部 部長
小田原 進 (オダハラ・ススム)

普通の人^{Free}のすごい事

広島でがんばっている、ふつうの人のすごい魅力 2018 AUG vol.26



小田原さんと松本社長。次々と注目商品を生み出す社長は、なんと現役金型職人。今も現場で新感覚の爪けずりを製造しています。→



「人生ってわからないものだよな。一人で新幹線も乗れなかった男が、今では日本全国を飛び回っているんだから!」そう話すのは東広島市志和町にある松本金型株式会社で販売部長を務める小田原さんだ。小田原さんが勤める松本金型は、長年自動車メーカーの下請けとして金型製造を手がけてきたが、リーマンショック後、大きな転機を迎える。仕事が激減する中、生き残りをかけて自立型のものづくりを目指し、下請けからメーカーへの脱却を図るべく、自社製品の開発に乗り出したのだ。「メーカーになりたいという気持ちはあったけど、実際、そんな金型屋さんは聞いたこともない。正直なところ、不安いっぱいスタートでしたよ」と当時を振り返る小田原さん。その言葉通り、そこからはすべてが初めての経験、苦勞の連続だっ

た。まず、商品を開発するといっても何をどうしたらいいのか見当もつかない。途方に暮れていたその時、ふと社長の目に止まったのが、東京の町工場が開発した『痛くない注射針』の新聞記事だった。「これだ!」と閃いた社長はさっそく『痛くない耳かき』を考案。しかし、開発には成功したものの、今度は売り方がわからない。どうしたものかと頭を抱えていたら、縁あって相談役となってくれていたコンサルタントの方が、「小田原さん、あんたが売らなくちゃ!」と、小田原さんを販売担当に抜擢。営業の“え”の字も知らない小田原さんだったが、体当たりの営業が実を結び、耳かきは3年間で100万本、売り上げ2億円を超えるヒット商品にまで成長。小田原さんたちの起こした小さな革命が、広島の、いや日本の経済に大きな元気を生み出している。

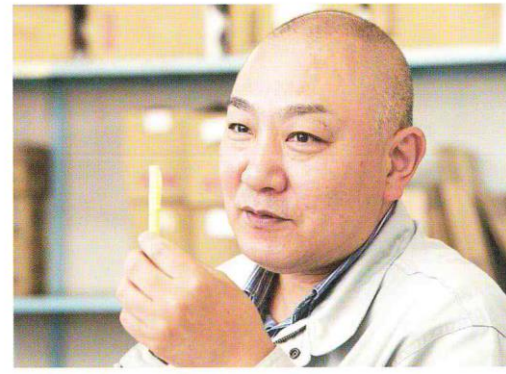


耳かきの先端は160本の「かき状」極細ブラシ(左)と小さい柔らかヘッド(右)の2種類。

耳かきのヒントになった治具付き砥石。(歯科医院などで歯を削るために使用される)



一度使えばナットク! やみつきになる心地よい触感



a1:広島県出身 a2:8年目
a3:カーブ3連覇 a4:大好きです!
a5:自分にできない事ができる人は、みんなすごい
□松本金型株式会社
広島県東広島市志和町冠283番地
TEL 082・433・6838
詳しい情報は「普通の人^{Free}のすごい事」HPへ